日立工機

ブレーキ付

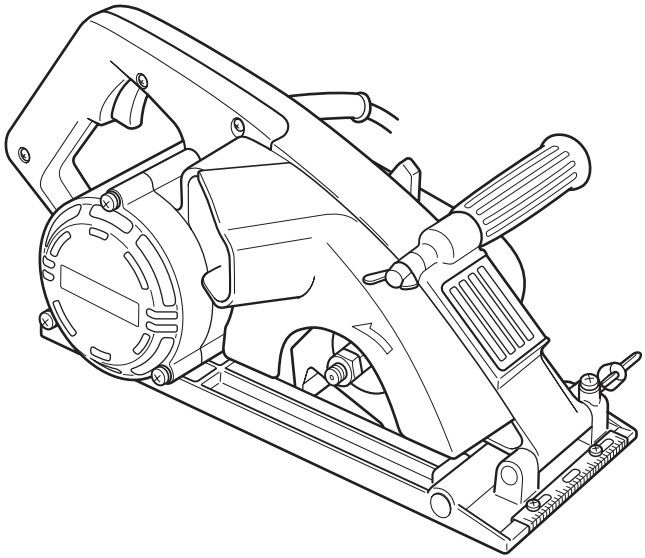
日立仕上溝切

PG 21B （カッタ付）

PG 21B (N)（カッタ別売）

取扱説明書

このたびは日立仕上溝切をお買い上げいただき，ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり，正しく安全にお使いください。
お読みになった後は，いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



目　次

ページ

電動工具の安全上のご注意 ……2
ブレーキ付仕上溝切の使用上のご注意 ……5
各部の名称 ……7
仕　様 ……7
標準付属品 ……8
別売部品 ……9
用　途 ……9
作業前の準備 ……9
ご使用前に ……11
作業前の調整 ……12
溝の削り方 ……14
カッタの取付け・取りはずし ……16
カッタのとぎ方について ……17
保守・点検 ……18
ご修理のときは ……20
全国営業拠点 ……裏表紙

⚠警告，⚠注意，注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠**警告**」と「⚠**注意**」に区分していますが，それぞれ次の意味を表します。また，「**注**」の意味も説明します。

⚠ 警 告 ： **誤った取扱いをしたときに，使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠ 注 意 ： **誤った取扱いをしたときに，使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお，「⚠**注意**」に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので，必ず守ってください。

注 ： **製品の据付け，操作，メンテナンスに関する重要なご注意。**

電動工具の安全上のご注意

- **火災，感電，けがなどの事故を未然に防ぐために，次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。**
- **ご使用前に，この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上，指示に従って正しく使用してください。**
- **お読みになった後は，お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。**

⚠ 警　告

① 作業場は，いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は，事故の原因になります。

② 作業場の周囲状況も考慮してください。
- 電動工具は，雨中で使用したり，湿った，または，ぬれた場所で使用しないでください。
- 作業場は十分に明るくしてください。
- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

③ 感電に注意してください。
- 電動工具を使用中，身体を，アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
  （例えば，パイプ，暖房器具，電子レンジ，冷蔵庫などの外枠）

④ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外，電動工具やコードに触れさせないでください。
- 作業者以外，作業場へ近づけないでください。

⑤ 使用しない場合は，きちんと保管してください。
- 乾燥した場所で，子供の手の届かない高い所または錠のかかる所に保管してください。

⑥ 無理して使用しないでください。
- 安全に能率よく作業するために，電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
- 小形の電動工具やアタッチメントは，大形の電動工具で行なう作業には使用しないでください。
- 指定された用途以外に使用しないでください。

⑧ きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は，回転部に巻き込まれる恐れがあるので，着用しないでください。
- 屋外での作業の場合には，ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
- 長い髪は，帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

⚠ 警　告

⑨ 保護メガネを使用してください。

- 作業時は，保護メガネを使用してください。また，粉じんの多い作業では，防じんマスクを併用してください。

⑩ 防音保護具を着用してください。

- 騒音の大きい作業では，耳栓，イヤマフなどの防音保護具を着用してください。

⑪ コードを乱暴に扱わないでください。

- コードを持って電動工具を運んだり，コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- コードを熱，油，角のとがった所に近づけないでください。

⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。

- 加工する物を固定するために，クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で，両手で電動工具を使用できます。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりさせ，バランスを保つようにしてください。

⑭ 電動工具は，注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために，刃物類は常に手入れをし，よく切れる状態を保ってください。
- 注油や付属品の交換は，取扱説明書に従ってください。
- コードは定期的に点検し，損傷している場合は，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- 継ぎ(延長)コードを使用する場合は，定期的に点検し，損傷している場合には交換してください。
- 握り部は，常に乾かしてきれいな状態を保ち，油やグリースが付かないようにしてください。

⑮ 次の場合は，電動工具のスイッチを切り，さし込みプラグを電源から抜いてください。

- 使用しない，または，修理する場合。
- 刃物，トイシ，ビットなどの付属品を交換する場合。
- その他，危険が予想される場合。

⑯ 調節キーやスパナなどは，必ず取りはずしてください。

- 電源を入れる前に，調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⑰ 不意な始動は避けてください。

- 電源につないだ状態で，スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- さし込みプラグを電源に差し込む前に，スイッチが切れていることを確かめてください。

⑱ 屋外使用に合った継ぎ(延長)コードを使用してください。

- 屋外で使用する場合，キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルの継ぎ(延長)コードを使用してください。

⚠ 警　告

⑲ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 電動工具を使用する場合は，取扱方法，作業のしかた，周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは，使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に，保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し，正常に作動するか，また，所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締め付け状態，部品の破損，取り付け状態，その他，運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー，その他の部品交換や修理は，取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
  スイッチが故障した場合は，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は，使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると，事故やけがの原因になる恐れがあるので，使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は，専門店に依頼してください。

- この製品は，該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は，必ずお買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
  修理の知識や技術のない方が修理すると，十分な性能を発揮しないだけでなく，事故やけがの原因になります。

ブレーキ付仕上溝切の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが，ブレーキ付仕上溝切として，さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警　告

① **使用電源は，銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると，回転が異常に高速となり，けがの原因になります。

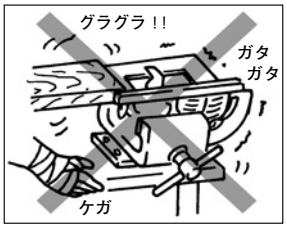
② **必ずアース(接地)してください。**
故障や漏電などのとき，感電の恐れがあります。
(詳細は，9ページの「1．アース(接地)，漏電しゃ断器の確認」の項をご参照ください。)

③ **使用中は，サイドハンドルを付け，両手で本体を確実に保持してください。**
確実に保持していないと，けがの原因になります。

④ **切削する材料は，安定性のよい台に置いて作業してください。**
台が不安定ですと，けがの原因になります。

⑤ **本体を万力などで保持して，カッタを上向き(定置形)にした使い方はしないでください。**
カッタに手や身体が触れ，思わぬけがの原因になります。

⑤



⑥ **使用中は，カッタや回転部，切粉排出口に手や顔などを近づけないでください。**
けがの原因になります。

⑦ **使用中，機体の調子が悪かったり，異常音がしたときは，直ちにスイッチを切って使用を中止し，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。**
そのまま使用していると，けがの原因になります。

⑧ **誤って落としたり，ぶつけたときは，機体などに破損や亀裂，変形がないことをよく点検してください。**
破損や亀裂，変形があると，けがの原因になります。

⑨ **継ぎ（延長）コードを使用するときは，アース線を備えた3心キャブタイヤケーブルを使用してください。**
アース線のない2心コードですと，感電の原因になります。

⚠ 注　意

① **カッタや付属品は，取扱説明書に従って確実に取り付けてください。**
確実でないと，はずれたりし，けがの原因になります。

② **カッタの取扱いには，手袋，布などで手を保護し，十分注意してください。**
不用意に扱うと，切り傷の原因になります。

③ **ブレーキが働くときの反発力に注意してください。**
機体を落としたりし，けがの原因になります。

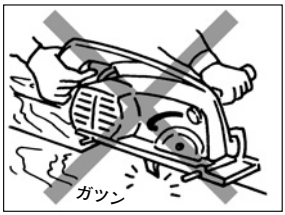
④ **材料に釘などの異物がないことを確認してください。**
刃こぼれだけでなく，反発力により思わぬけがの原因になります。

⑤ **回転するカッタで，コードを切断しないよう注意してください。**
感電の恐れがあります。

⑥ **回転させたまま，台や床などに放置しないでください。**
けがの原因になります。

④

⑥



各部の名称

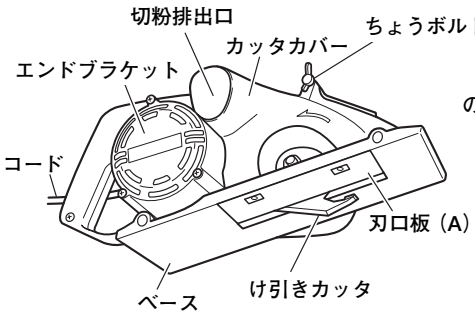


図　1

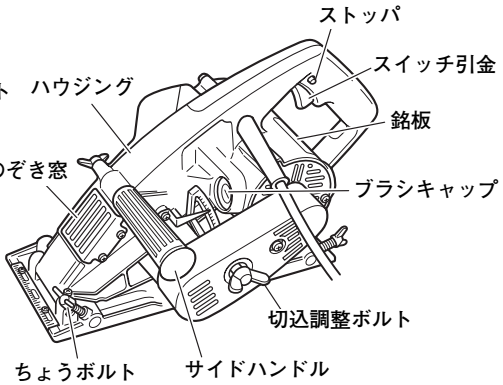


図　2

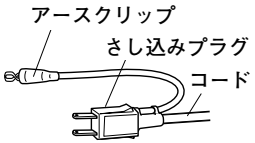


図　3

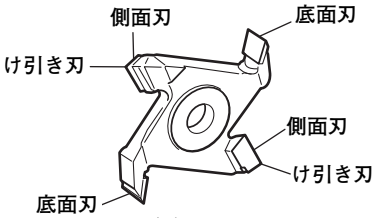
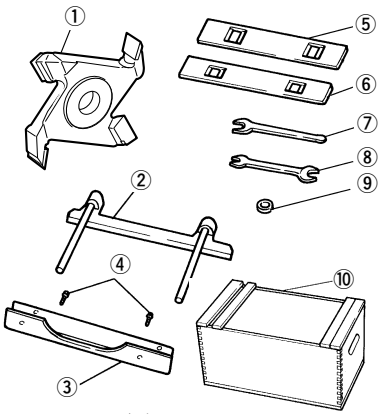
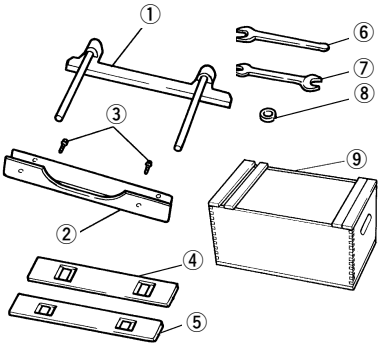


図　4

仕　　様

使用電源	単相交流	50／60 Hz　共用
	電　　圧	100 V
能　　力	切削幅	21mm（標準）　46mm（最大）
	切込み深さ	15mm（標準）　27.5mm（最大）
カッタ寸法	標準品	外径120mm×幅21mm×穴径15mm（け引きカッタ）
全負荷電流	12 A	
消費電力	1140 W	
無負荷回転数	8500 min^{-1} {8500回／分}	
モーター	単相直巻整流子モーター	
質　　量	6.5kg（コード，ガイドを除く）	

標準付属品

PG 21B **カッタ付**	 図 5－1
PG 21B(N) **カッタ別売**	 図 5－2

① 21mmけ引きカッタ
（本体装着）……1個
② ガイド……1個
③ しゃくりガイド……1個
④ M5ネジ……2個
（しゃくりガイド取付用）
⑤ 刃口板(B)……1個
⑥ 刃口板(C)……1個
⑦ スパナ(大)……1個
⑧ スパナ(小)……1個
⑨ 小刃幅カッタ用ワッシャ‥1個
⑩ 木　箱……1個

① ガイド……1個
② しゃくりガイド……1個
③ M5ネジ……2個
（しゃくりガイド取付用）
④ 刃口板(B)……1個
⑤ 刃口板(C)……1個
⑥ スパナ(大)……1個
⑦ スパナ(小)……1個
⑧ 小刃幅カッタ用ワッシャ‥1個
⑨ 木　箱……1個

別売部品

……（別売部品は生産を打ち切る場合があります。）

1．カッタ

表　1　　（単位mm）

カッタの種類	外径	最大切込み深さ	刃　　幅
け引きカッタ	120	27.5	3　4.5　5.5　6　7.5　9　10.5　12　15　18　21　30
胴縁カッタ	110	22.5	30　33　36　39　42　46　47

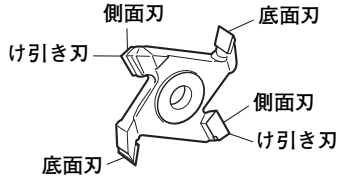


図　6（け引きカッタ）

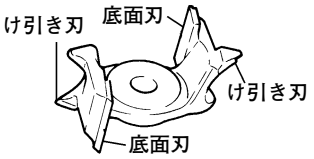


図　7（胴縁カッタ）

2．胴縁ガイド

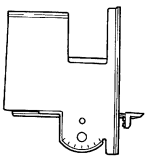


図　8

3．平ガイド

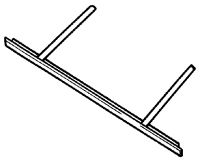


図　9

用　　途

○カッタにより木材の溝切作業

作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

1．アース(接地)，漏電しゃ断器の確認……

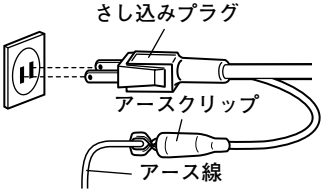
ご使用にさきだち，本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置(以下，漏電しゃ断器と言います)が設置されていることを確認してください。

また，本機は必ずアース(接地)をしてください。定格感度電流15 mA以下，動作時間0.1秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも，より安全のためにアースされるようおすすめします。

アースをするときは，下記図のアースクリップをお使いになると便利です。

アースクリップ，アース線は，念のために異常のないことを確認してからご使用ください。テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら，アースクリップと本機金属外枠との間の導通を確認してください。

地中に接地極（アース板，アース棒）を埋め，アース線を接続するなどの接地工事は，電気工事士の資格が必要ですので，お近くの電気工事店にご相談ください。なお，アース線をガス管に取付けると爆発の恐れがありますので，絶対にしないでください。



漏電しゃ断器やアース(接地)については，次の法規がありますので，ご参照ください。
労働安全衛生規則（第333条，第334条）
電気設備の技術基準（第18条,第28条,第41条）

2．継ぎ(延長)コード……

⚠ 警　告
• **継ぎ(延長)コードは，損傷のないものを使用してください。**

電源の位置がはなれていて継ぎコードが必要なときは，製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため，電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。

導体公称断面積	最大長さ
1.25 mm²	10 m
2 mm²	15 m
3.5 mm²	30 m

左の表は，使用できるコードの太さ（導体公称断面積）とその最大長さを示します。

必ずアース（接地）できる接地用の１心をもつ３心キャブタイヤケーブルをお使いください。

3．作業台（木製）を用意する……

溝切作業に合ったしっかりした作業台をご用意ください。作業台がぐらぐらしていますとけがの原因になります。作業台は安定した状態に設置してください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては，法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう，規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ，しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

⚠ 警　告

• ご使用前に次のことを確認してください。1～4項については，さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。

1．使用電源を確かめる……

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に高速になり，機体が破壊する恐れがあります。また，直流電源で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく，事故の原因になります。

2．スイッチが切れていることを確かめる……

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源にさし込むと不意に起動し思わぬ事故のもととなります。スイッチはスイッチ引金（図2参照）を引くと入り，離すと切れます。スイッチの引金を引き，離したとき引金が戻ることを必ず確認してください。

3．切込調整ボルトの締付けを確かめる……

切込調整ボルト（図2参照）の締付けがゆるいと使用中に切込み深さが変わりますので締付けを確かめてください。

4．カッタの締付けを確かめる……

工場で組立ての際は，カッタを締付けてありますが，念のため確かめてください。ナットは時計方向にまわすと締まります。付属のスパナを使用し確かめてください。詳しくは，16ページの「カッタの取付け・取りはずし」の項をご参照ください。

注 **• カッタ刃先にはさび防止のシールが付いています。ご使用前にシールをはがしてください。**

5．電源コンセントの点検……

さし込みプラグをさし込んだとき，ガタガタだったり，すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと，過熱して事故の原因になります。

6．ブレーキがかかることを確かめる……

本機はスイッチを切ると同時にブレーキがかかる構造になっています。

ご使用前に，ブレーキがかかることを確認してください。万一正常に作動しない場合は，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに修理をご用命ください。

作業前の調整

⚠ 警　告

- **万一の事故を防止するため，必ずスイッチを切り，さし込みプラグを電源から抜いておいてください。**

1．刃口板の調整……

本機のベースには溝部のふち欠けを防ぎ，ベースの刃口幅を調整できる刃口板が付いています。工場出荷の際は，刃幅３～21mmカッタに合わせ，刃口板（A）を取付けてありますので，ご使用の際は，次によりカッタの刃幅に合わせて調整してください。

(1)　刃幅 3～21mmカッタの場合

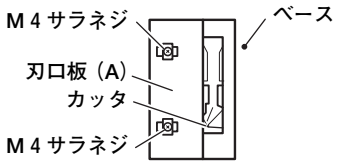


図　10

本体をうら返しし，Ｍ４サラネジ（２本）をゆるめ，刃口板（A）を図10のようにカッタの刃先側面に当たらない程度に移動させて，Ｍ４サラネジ（２本）で締付け固定します。

(2)　刃幅 30～39mmカッタの場合

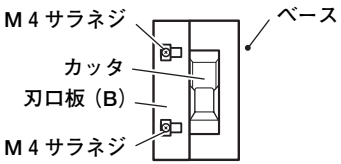


図　11

本体をうら返しし，標準付属品の刃口板（B）を図11のようにベースに取付け，（１）項と同じ要領で刃口板（B）を調整して，Ｍ４サラネジ（２本）で締付け固定します。

(3)　刃幅 42～47mmカッタの場合

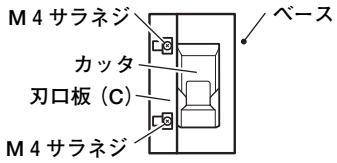


図　12

本体をうら返しし，標準付属品の刃口板（C）を図12のようにベースに取付け，（１）項と同じ要領で刃口板（C）を調整して，Ｍ４サラネジ（２本）で締付け固定します。

注
- **刃口板を調整後，Ｍ４サラネジは確実に締付けてください。**
- **最後にもう一度，カッタを手で回して，刃先側面が刃口板に当たらないことを確認してください。**

2．切込み深さの調整……

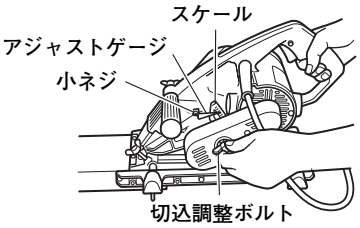


図　13

木材の上にベース前部をのせます。

次に切込調整ボルトをゆるめて本体を上下に動かし，アジャストゲージをスケールの目盛りに合わせます。（図13）

0の目盛りのときが切込み深さは0で，それより1目盛3 mmの割合いで切込みます。

注
- **外径が標準寸法120mmのカッタと異なる別売部品のカッタをご使用のときやカッタが摩耗してきた場合は，切込調整ボルトでカッタの切込みを実際の0点に固定し，アジャストゲージを止めている小ネジをゆるめ，スケール目盛り0点に調整し，小ネジで締付け固定してください。**
- **切込み深さ調整後，切込調整ボルトを確実に締付けてください。**

3．切込み位置の調整……

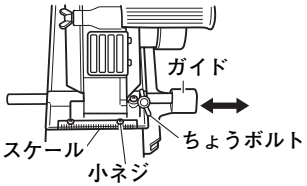


図　14

ベース前後のちょうボルトをゆるめてガイドを左右（⟷方向）に動かし，所定位置に固定します。（図14）

スケール目盛りの0の位置が溝切りをする場合のカッタ側面の位置を示します。（図15）

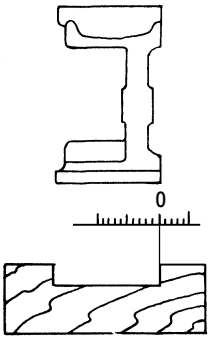


図　15

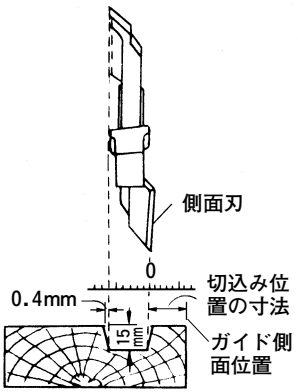


図　16

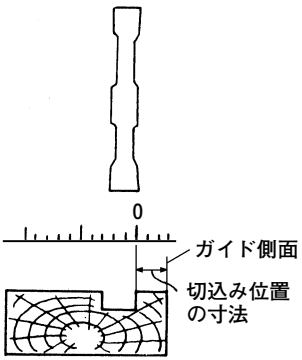


図　17

注
- **21mm幅のカッタと異なるカッタをご使用になる場合は，小ネジをゆるめてスケールをずらし，目盛りの0位置をカッタの側面に一致させてください。（図15，図16，図17）**

溝の削り方

⚠ 警　告

- **カッタを上向き，横向きにした使い方はしないでください。**
- **回転中のカッタには手や身体を近づけないでください。**

⚠ 注　意

- **使用中にカッタが止まったり，異音を発したときなどには，直ちにスイッチを切ってください。**
- **回転中のカッタにコードを接近させないよう十分ご注意ください。**
- **運搬は必ずカッタが止まってからにしてください。**
- **運搬のときには，スイッチ引金に指をかけないでください。**
  不意にスイッチが入り，思わぬけがの原因になります。
- **作業中断時や作業後は，必ずスイッチを切り，さし込みプラグを電源から抜いておいてください。**

1．切込み量と送り速さについて……

(1)　本機は外径120mmのカッタで深さ15mmまで削ることが標準です。

(2)　送り速さは木材の材質により異なりますが「すぎ」など柔らかいものには約4cm毎秒，また「まつ」など少々硬いものには約3cm毎秒ぐらいが普通です。またいずれの場合も速さを一定に保つことが大切ですが，特にきれいな仕上面にするには幾分遅くしてください。

(3)　乾いた材料や，木目によって溝のふちが欠けるおそれがある場合は特に速さをおとすか，切込みを所要の深さの半分にして2回で削るようにすると，きれいに仕上がります。

2．相じゃくりのとき……

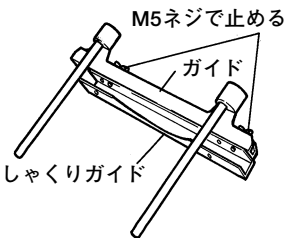


図　18

図　19

図19のような相じゃくり作業は付属のしゃくりガイドを図18のようにガイドに取付けておこないます。

3．削るときは……

(1)　木材の上に本体(ベース)をのせ，カッタが木材に触れない状態でスイッチを入れます。スイッチ引金を引きますとスイッチが入ります。

(2)　回転が上昇してから，ガイドが木材の側面に当るように押えながら本体が木材の上を平らに動くよう静かに前に進めて削ります。削り終えるまでそのままの状態を保つようにしてください。削り始めや削り終りに図21のように本体が傾きますと，木材の端を大きく削り取りますから，矢印の方向に力を入れ，本体を平らに保つようにしてください。(図20)

図20(良い使い方)

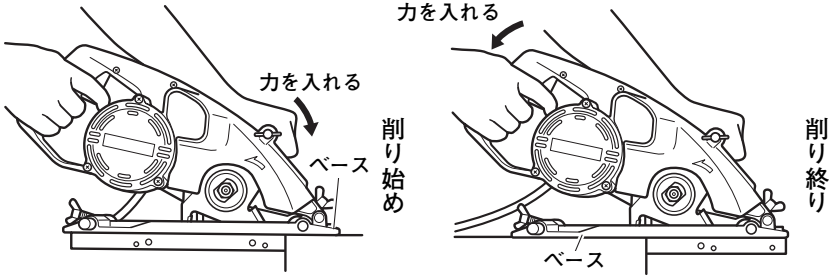
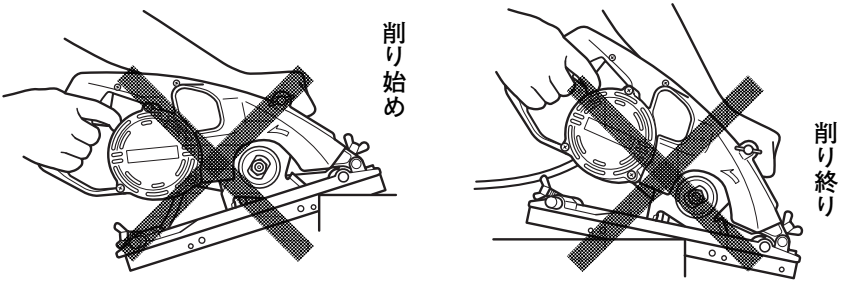


図21(悪い使い方)



4．途中から木材を削るときは……

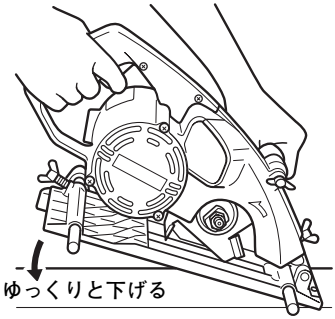


図　22

(1)　切込み深さの調整(13ページ参照)，および切込み位置の調整(13ページ参照)をおこないます。

(2)　本体のベース先端を木材にのせて，カッタを削り始める位置(木材の長手方向)に合わせます。

(3)　ガイドを木材の側面に当てておき，カッタ刃先が木材に触れない状態でスイッチを入れ，ベース全体が木材にのるまで本体をゆっくりと下げて，静かに前に進めます。(図22)

5．胴縁加工のときは……

別売部品の胴縁ガイド，平ガイドを使用します。

(1)　胴縁ガイドの角度を調整して胴縁ガイドの側面と墨線を一致させてください。(図23)

(2)　加工材の墨線から約15cm程度はなして胴縁ガイドをおきます。(図24)

(3)　胴縁ガイドのガイドピースは墨線より0.5～1mm程度はなしてください。(図24)

(4)　本体を加工材の上に乗せスケールの0マークの位置に墨線を合わせます。(図24)

(5)　ちょうボルトをゆるめ(後部にも1本あります)平ガイドを胴縁ガイドの側面に当て，ちょうボルトを締めて固定します。

(6)　胴縁ガイドを足で押えたまま，平ガイドを胴縁ガイドに押し当てるようにしながら削ります。　(図25)

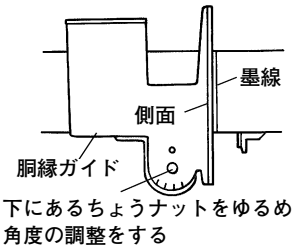


図　23

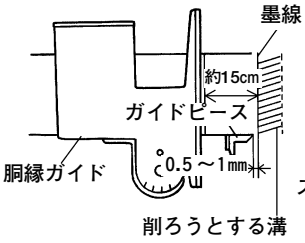


図　24

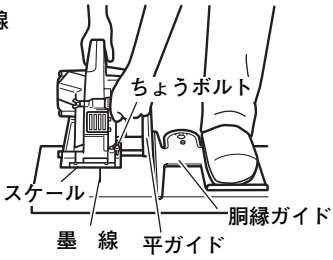


図　25

カッタの取付け・取りはずし

⚠　警　告

- **万一の事故を防止するため，必ずスイッチを切り，さし込みプラグを電源から抜いておいてください。**

1．取りはずし方……

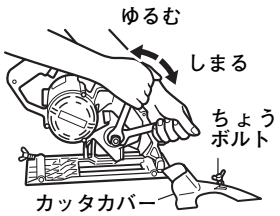


図　26

カッタカバーをはずし，付属のスパナ2本を使い，大きいほうのスパナをワッシャ(B)の切欠部に掛け，小さいほうのスパナでナットをゆるめます。(図26)

続いて，ワッシャ(B)，カッタの順ではずします。

2．取付け方……

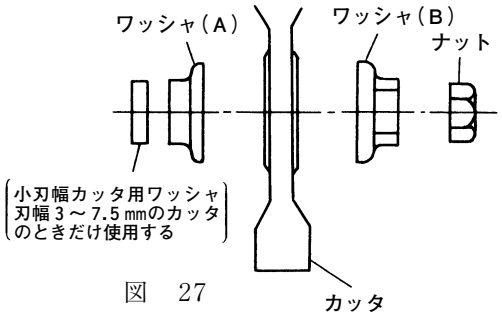


図　27

カッタの向きに注意し，取りはずしと逆の順に取付けて，ナットを十分に締めてください。（図 27）

取付けるときはワッシャやスピンドルに付いている切りくずをよくふき取ってください。

カッタのとぎ方について

注 • **け引き刃および側面刃（図 28）は底面刃に比べると切れ味が早く落ちますので，仕上げぐあいに気をつけて早めに刃をとぐようにしてください。**

1．とぎ方……

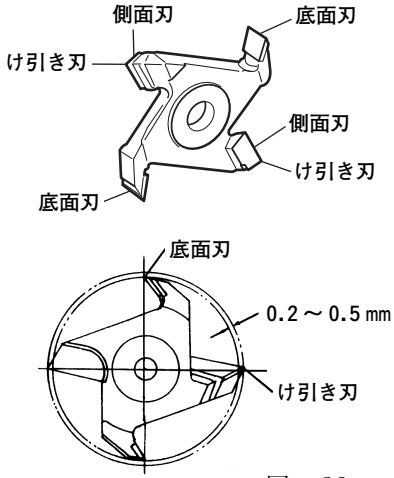


図　28

とぎ方は，普通のかんな刃などと同じ要領ですが 2 枚の刃が同じ高さなるようにといでください。け引きカッタの場合はけ引き刃は底面刃より 0.2～0.5mm出るようにといでください。

トイシは，中とぎに# 240 ～# 280 の油トイシ，仕上げとぎに# 500 ～# 800 の油トイシまたは水トイシが適当です。

大きい刃こぼれがありますと，それが 1 枚でも回転ムラの原因となり仕上面がきたなくなります。グラインダなどにより，両方の刃をそろえるように荒とぎをし，そのあと仕上げとぎをします。

保守・点検

⚠ 警　告

- **点検・手入れの際は，必ずスイッチを切り，さし込みプラグを電源から抜いておいてください。**

1．カッターの点検……

⚠ 注　意

- **切れ味の低下したカッタをそのまま使用しないでください。切削時の反力が大きくなり，思わぬけがの原因になります。**

カッタの切れ味が悪くなったものをそのままご使用になっておりますとモーターに無理をかけることになり，また能率も落ちますから早めに研磨するか，新品と交換してください。

2．のぞき窓の掃除……

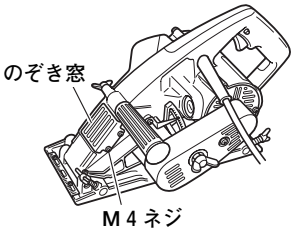


図　29

のぞき窓はＭ４ネジをはずすと本体より取りはずせます。のぞき窓のくもりはかわいた布でふくと落ちますが，くもりがひどい場合は，石けん水で洗うとよく落ちます。石けん水で洗ったときは，水分をよく切ってください。

3．各部取付けネジの点検……

各部取付けネジでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら締めなおしてください。ゆるんだままお使いになりますと，けがなど事故の原因になります。

4．カーボンブラシの点検……

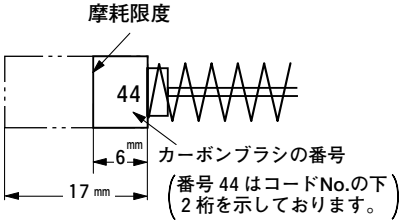


図　30

モーター部には，消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと，モーターの故障の原因となりますので，長さが摩耗限度（6 mm）ぐらいになりましたら新品と交換してください。

また，カーボンブラシはゴミなどを取り除いてきれいにし，ブラシホルダ内で自由にすべるようにしておいてください。

注 **• 新品と交換の際は，必ず図示の番号（44）の日立カーボンブラシを使用してください。指定以外のカーボンブラシを使用すると，ブレーキがかからないことがあります。**

交換方法 交換はマイナスドライバーによりブラシキャップ（図 2 参照）をはずしますと取り出せます。

5．モーター部の取扱いについて……

モーター部の巻線部分は本機の心臓部ともいえます。巻線部分にキズをつけたり，洗油や水をつけたりしないよう十分注意してください。

注 **• モーター内部にゴミやほこりがたまると，故障の原因になります。**
使用後は，モーターを無負荷運転させて，風を送りますとゴミやほこりの排出に効果があります。

6．製品や付属品の保管……

使用しない製品や付属品の保管場所として，下記のような場所は避け，安全で乾燥した場所に保管してください。

- ○お子様の手が届いたり，簡単に持ち出せる場所
- ○軒先など雨がかかったり，湿気のある場所
- ○温度が急変する場所
- ○直射日光の当る場所
- ○引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

} このような場所には保管しない。

ご修理のときは

この機体は，厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は，決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは，裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他，部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら，ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

メ　　モ

メ　　モ

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　　月　　日	販売店
製造番号(No.)	電話番号

■ 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全 国 営 業 拠 点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟） ☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目（日生ビル） ☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号 ☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟） ☎(03) 5783-0629(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号（コスモ栄ビル） ☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番 ☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号（スノークリスタル） ☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号（第一生命ビル） ☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981 ☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号 ☎(092) 621-5772(代)

● **電動工具ご相談窓口** ── お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター　フリーダイヤル 0120-20 8822（無料）

※携帯電話からはご利用になれません。（土・日・祝日を除く　午前9：00 ～ 午後5：00）

電動工具ホームページ ── http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社

部品コード　99481706 N